

# 特集 山の日

安全に楽しむために

8月11日は「山の日」

この日は、国民の祝日として法律の中で『山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する』と明記されています。羊蹄山とニセコ連峰に囲まれ、そこに暮らす私たち倶知安町民も、日ごろ当たり前の景色としてある、山や自然について改めて考えるとともに感謝し、そしてこれまで以上に親しむ契機となるのではないのでしょうか。この特集では、前半で倶知安の山とその楽しみ方、後半では、山の安全を守るため今年4月に正式発隊した「羊蹄山ろく消防組合山岳救助隊」を紹介します。

## 多彩な山々

**羊蹄山**  
 羊蹄山は、支笏洞爺国立公園に属しており、その雄大な姿はもちろん、登山コースとしても古くから人々を惹きつけており、現在でも日本百名山のひとつとして多くの登山者が訪れています。

標高差は1600以上あることから、一般的に登り5時間、下り4時間の計10時間程度の厳しい登山となります。日常的に運動をしている方でも、登山経験のある方と同行し十分な装備で臨みましょう。山頂付近には避難小屋が設置されており夏季は管理人も常駐しています。

●小屋の利用について／  
 観光課 ☎23-3388

### イワオヌブリ・ニセコアンヌブリ

イワオヌブリとニセコ連峰の主峰ニセコアンヌブリは、町のこれまでの歴史の中で非常に重要な役割を果たしてきました。イワオヌブリでは、明治から昭和の初めにかけて硫

黄採掘が盛んに行われ、盛期には200人以上がそこに住み、地域経済を支える存在でした。その採掘量が減少し始め、閉山を迎えてから二十数年後、ニセコアンヌブリにスキーリゾートがかかり、現在に続くスキーリゾートとしてのニセコの歴史が始まります。

ニセコアンヌブリ山頂では、太平洋戦争中に軍用機の着氷実験が行われていました。現在この機体の主翼の一部を風土館で一般公開しています。

また、このほかにも倶知安町の周辺には大小さまざまな山があり、それぞれが多彩な魅力を持っています。



▼別所川とニセコの山々

▲ニセコアンヌブリ登山道から望むイワオヌブリ



ニセコアンヌブリ山頂から望む  
 倶知安の町並みと羊蹄山

## 山を楽しむためにできること



**ニセコ羊蹄山岳会代表**  
**古市 竜太さん**  
 (マウンテンガイドコーステ主幹)  
 1971年 千葉県生まれ  
 大学卒業後北海道内の企業に就職、約15年前より町内のアウトドア体験業者に勤め、2008年よりマウンテンガイドコースを設立。安全と安心を第一に、夏山をはじめ冬はバックカントリースキーなど通年で、アウトドアガイドを行う。日本山岳ガイド協会登山ガイドステージII、スキーガイドステージII

**十分な備えと心の余裕をもって  
 新たな発見と非日常の時間を**

ニセコ羊蹄山岳会の代表であり、登山やバックカントリースキーなどのガイドを行う「マウンテンガイドコース」の主幹でもある古市さんに、山の楽しみ方についてお話を伺いました。

山の気温はもちろん天候は、私たちが普段生活する市街地とは大きく異なります。

山に登る前には、必ず天気予報を確認しましょう。最近では、山の天気の特化したウェブページやスマートフォンアプリなどもあるのですが、天候はもちろん、風の情報にも注意し、確認をしっかりと。雨が降らないから大丈夫と思っても、強風が吹くと一気に体温が奪われ、低体温症などになる恐れがあります。

また、普段運動をされていない方は、登山の計画を立てたら、その日に向けて日常的な運動を心がけましょう。そして、雨具の準備を忘れず、ビニール製の簡易的なものではなく、上下の分かれたもので、運動に適した、できれば登山用のものを用意してください。

歩き始めたら、まずは、頑張りすぎないことを心がけましょう。目安としては7〜8割です。そうすることで、体力的にも気持ちにも余裕ができます。また、事前に山のガイドブックなどを読むことで、知る楽しみも広がります。周りの景色や生き物、また花々などを観察することで、登山の楽しみ方はさらに広がるでしょう。

もしも、途中で不安を感じた時は引き返す勇気も必要です。山はいつでもそこにある

ます。無理をせず安全に登山を楽しみましょう。倶知安町の周辺の山々は、それぞれ特徴的であり、さまざまな表情を持っています。普段はご自宅や、通勤通学時に当たり前に目にする山ですが、その上に立ち、私たちの暮らす町を、いつもと違った視点で眺めてみることで、新たな発見があるかもしれません。自然に囲まれた中でしか味わうことのできない、非日常の時間を楽しみましょう。



旭ヶ丘山頂からの眺望

▲古市さんが勤めるスポットのひとつ。「市街地からも近く、登山をされたことのない方やお子さんでも、比較的気軽に楽しむことができます」

## 山の安全を守る精鋭たち



羊蹄山ろく消防組合  
山岳救助隊隊長  
加藤 知也さん  
(倶知安消防署司令補)  
1973年小樽市生まれ  
高校卒業後、平成4年  
より同署勤務

当初は私を含め、隊員の多くは登山に関する知識も経験も浅く、慣れない訓練に非常に苦労しましたが、正式発隊に向けては、北海道警察の山岳救助隊に指導いただき、多くの訓練を積み重ねてきました。この協力には感謝しきれないと思います。

今後は身につけた知識や経験を、いかにして向上していくかが課題です。

私たち羊蹄山ろく消防組合の山岳救助隊が管轄するこの

地域には、国際的に人気を集めるスキー場があり、スキー場のコース外を滑走するスキーヤーやスノーボードなども増えてきています。また、春の山菜採りや、夏の登山者数も多く、それに伴い一年を通じて山での事故が増えているのが現状です。

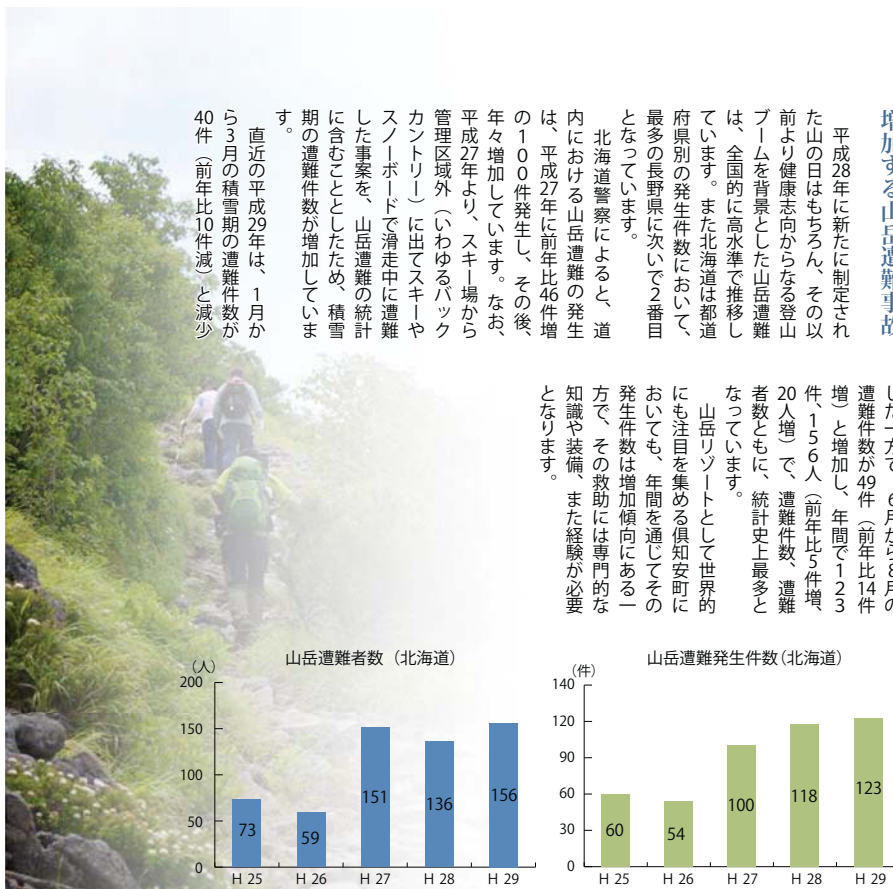
山岳事故は、市街地で発生する火災や交通事故、自然災害と違い、現場まで消防車や救急車などの車両で行くことはできません。また、日ごろ訓練を積んでおかないと、変りやすい山の天候の中での活動は、二次災害の危険性もあります。事故に遭われた方の救助はもちろんですが、私たち隊員が自らの命を守ることも重要であり、日々山岳救助活動の難しさを感じています。

増加する山岳事故に対応するため、今年4月に正式発隊となった、羊蹄山ろく消防組合山岳救助隊。その中で救助活動の指揮や、活動における隊員の安全管理を行なう加藤隊長にお話を伺いました。

### 積み重ねてきた訓練と地元の消防の強みを最大限に活かして

山での事故の際は、私たち山岳救助隊をはじめ警察や、またその規模により自衛隊や出動することもあります。3機関による合同訓練も行つ中で、地元消防の山岳救助隊として、16人の隊員のうち8名は救急救命士の資格を持っており、その特徴を最大限に活かせればと考えています。

登山を楽しむ方々には、単独での行動をできるだけ避けること。そして十分な水と食料を携帯することで、不測の事態に備え、思い切り山での時間を楽しんでもらえればと思います。万が一事故に遭われたときは、すぐに救助を呼んでください。



羊蹄山ろく消防組合では、多発する山での事故の中、下の2つの事案に対し、「人命救助を任務とする地元消防機関が対応できず困がゆい思いをしたこと」、「特別な装備や知識のない中で活動することにより二次災害の危険があったこと」、また「増加する観光客への対応」など、同様の事案に対応可能な部隊が地元消防機関にないことから、早急な対応が必要と考えました。

そして、平成28年7月、倶知安消防署6名に山麓の各消防署からの10名を加え計16名により「羊蹄山ろく消防組合山岳救助隊」を編成し、倶知安警察署の全面協力のもと、指導者として、当時同署勤務の伊藤巡查部長や北海道警察山岳遭難救助隊(特務中隊)を招き、約2年間にわたり指導を受け、本年4月に本格運用となりました。

### CASE2

平成28年3月26～28日、羊蹄山5合目付近(京極町)にてバックカントリー中の男性1名が雪崩に巻き込まれ行方不明となった。北海道警察、陸上自衛隊による3日間にわたる捜索の結果、遺体で発見。この活動に消防の救助隊は、装備、知識がないため現場にすら立ち入れず捜索隊に参加できていない。

### CASE1

平成28年3月8日、羊蹄山5合目付近(倶知安町)にてバックカントリー中の男性1名が負傷し救助要請。現場は暴風雪によりホワイトアウト、消防で救助を試みるも装備、知識がなく途中退却、北海道警察山岳遭難救助隊を要請し、救助完了まで約9時間を要した。

### 増加する山岳遭難事故

平成28年に新たに制定された山の日はもちろん、その以前より健康志向からなる登山ブームを背景とした山岳遭難は、全国的に高水準で推移しています。また北海道は都道府県別の発生件数において、最多の長野県に次いで2番目となっています。

した一方で、6月から8月の遭難件数が49件(前年比14件増)と増加し、年間で123件、156人(前年比5件増、20人増)で、遭難件数、遭難者数ともに、統計史上最多となっています。

山岳リゾートとして世界的にも注目を集める倶知安町においても、年間を通じてその発生件数は増加傾向にある一方で、その救助には専門的な知識や装備、また経験が必要となります。

### 登山ブームなどを背景に増加する山岳遭難 山岳リゾートの町 倶知安の安全を守るために